

2026年1月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のてがたんは、2月14日(土)で、テーマは「冬鳥ウォッチング」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さん、次回の下見は2月7日(土)です。

## 1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→釣り堀東側のウメの木→河童像→水の館
- 観察日時／天気：2026年1月10日(土) 10:00～12:00／晴れ
- 参加人数：11名(大人10名、小学生1名)
- 市民スタッフ：8名(石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、伴野茂樹、弘實さと子、古澤紀元、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(岩本二郎)

## — 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

**【鳥類】** カモ科：カルガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／カモメ科：ユリカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ、オオタカ／カワセミ科：カワセミ／キツツキ科：コゲラ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ツグミ科：シロハラ、アカハラ、ツグミ／ヒタキ科：ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ  
家禽や外来種：ドバト(ハト科)

**【昆虫】** カメムシ目：キマダラカメムシ、ツヤアオカメムシ、ヨコヅナサシガメ／チョウ目：イラガ(まゆ)、ヒロヘリアオイラガ(まゆ)／カマキリ目：カマキリ目の一一種(卵嚢)／コウチュウ目：ナナホシテントウ／ハエ目：アブのなかま／ハチ目：アリ科の一一種、キイロスズメバチ(巣)、アシナガバチ属の一一種(巣)

**【クモ類】** ハエトリグモ科：シラヒゲハエトリ／ヒメグモ科：オオヒメグモ

### 【植物の花】

カバノキ科：ハンノキ／ツバキ科：ツバキ科の一一種／ウコギ科：ヤツデ

### 【植物の実】

クスノキ科：クスノキ／メギ科：ナンテン／ミソハギ科：サルスベリ／バラ科：トキワサンザシ属の一一種／アサ科：エノキ／ウリ科：カラスウリ／カバノキ科：ハンノキ／アブラナ科：ナズナ／サクラソウ科：マンリョウ／ツバキ科：ツバキ科の一一種／アカネ科：ヘクソカズラ／モクセイ科：トウネズミモチ／シソ科：ホトケノザ／モチノキ科：イヌツゲ／キク科：オニノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ

# 2026年1月の観察アルバム



今回のテーマは「命のタイムカプセル」で、卵嚢やまゆ、種子などの動かない状態で冬を過ごす生き物たちを探しました。目を凝らして探すと、じっとしている時間が長くなりましたが、当日は日差しが暖かく、風もあまり無かった為、それほど寒さは感じませんでした。そのお陰で、じっくりと探すことができ、樹上に残されていたハチの巣も発見できました。最後に水の館1F手賀沼ステーションに足を運び、生育環境が悪いと休眠できる例として、水槽の中のガシャモクを見ました。



今月の案内人  
岩本 二郎



①イラガのまゆ。



②ヒロヘリアオイラガがまゆから羽化した跡。



③羽化前に食べられたヒロヘリアオイラガ。



④キイロスズメバチの巣。



歩いたルートと観察した生き物



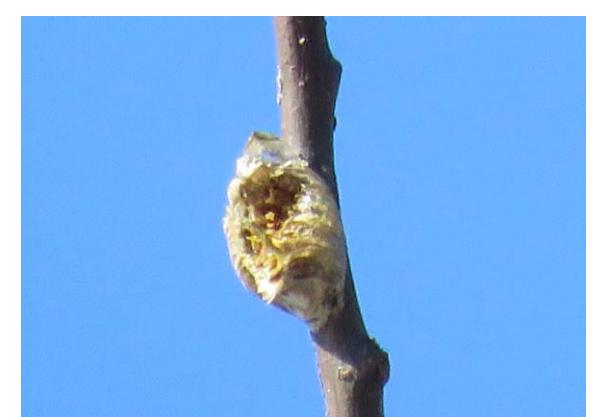
⑤アシナガバチ属の巣。



⑥モズのオス。



⑦成虫で越冬していたナナホシテントウ。



⑧コゲラに食べられたカマキリの一種の卵嚢。

## 今月の鳥 ツグミ（スズメ目ツグミ科）

越冬のために日本全国に飛来し、農耕地や河川敷、草原、市街地の公園などの開けた場所で、木の実や地面にいる昆虫、ミミズなどの小動物を食べます。木の実が豊作の時には、渡ってきてから初めは山地の森林で過ごし、秋に山地で木の実をついばんだ後、平地へと降りてきます。ムクドリと同じくらいの大きさではあるものの、ムクドリは脚を交互に動かして歩くことが多いのに対し、この鳥は両足をそろえて跳ねながら移動する様子もよく見られます。地面に溶け込むような羽色で、背中側は茶色で腹側は白く、胸から腹にかけて黒斑があります。姿は地味ですが、さえずりはきれいで、北へ旅立つ頃に、美しい声で鳴くことがあります。

